

令和4年度実施学校評価アンケートについて

はじめに

学校教育法第42条、第62条に、「文部科学大臣の定めるところにより当該高等学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」と規定されている。

これに基づき本校においても生徒、保護者による学校評価アンケートならびに教員による自己評価アンケートを毎年継続して実施し、それを検証することにより次年度への重点課題を設定し、さらなる本校の学校運営の改善と発展を目指すこととしている。

【重点目標】

1. 建学の精神の浸透【教育実践目標の推進】
2. ICT環境整備と情報活用能力の育成
 - ① 生徒の情報活用能力を育成する
 - ② ICTを効果的に活用し、分かり易く学びが深まる授業を実践する
 - ③ 校務の情報化を推進し、校務効率化を図る
3. 特色教育（コース・系、選択授業）の充実
各コース特色の更なる明確化を図り、校内外への特色理解を浸透させる
4. PDCAサイクルを意識した学校運営と、学習指導及び進路指導の充実

[学校運営分野]

各部署においてPDCAサイクル意識した校務運営を図る

[教務（授業、評価）関係分野]

- ① シラバス・カリキュラム整備
- ② 授業改革(ICT教育・アクティブラーニングの推進)
- ③ 観点別評価への移行（3観点への移行・・・1年目）
- ④ 新教育システム(BLENDへの移行)

[進路指導分野]

- ① 進路実現のための適切な進路指導体制の確立
- ② 大学入学共通テスト・その他大学入学者選抜対策

[探究学習・学びの記録(ポートフォリオ)分野]

進路実現に繋がる探究学習の確立

[教育相談分野]

教育相談体制のさらなる充実と学習保障への組織的体制の構築
転退学を抑止する取り組みの推進

1. 質問項目について

質問項目は 21 項目あり、内容は教育目標、宗教教育、学習指導、生徒指導、進路指導、防災安全教育、広報活動、教育環境、連携事業に関する質問で構成されている。各質問項目（下記参照）に対し、①「そう思う」②「だいたい思う」③「あまり思わない」④「思わない」⑤「わからない」の中から一つ選び回答する。すべての質問項目に対し、①「そう思う」②「だいたい思う」と答えた場合、これを肯定的な回答に分類し、③「あまり思わない」④「思わない」と答えた場合、これを否定的な回答に分類し、まとめを行った。

2. 実施内容

実施時期：令和 4 年 12 月

調査対象：両キャンパス生徒・保護者・教員

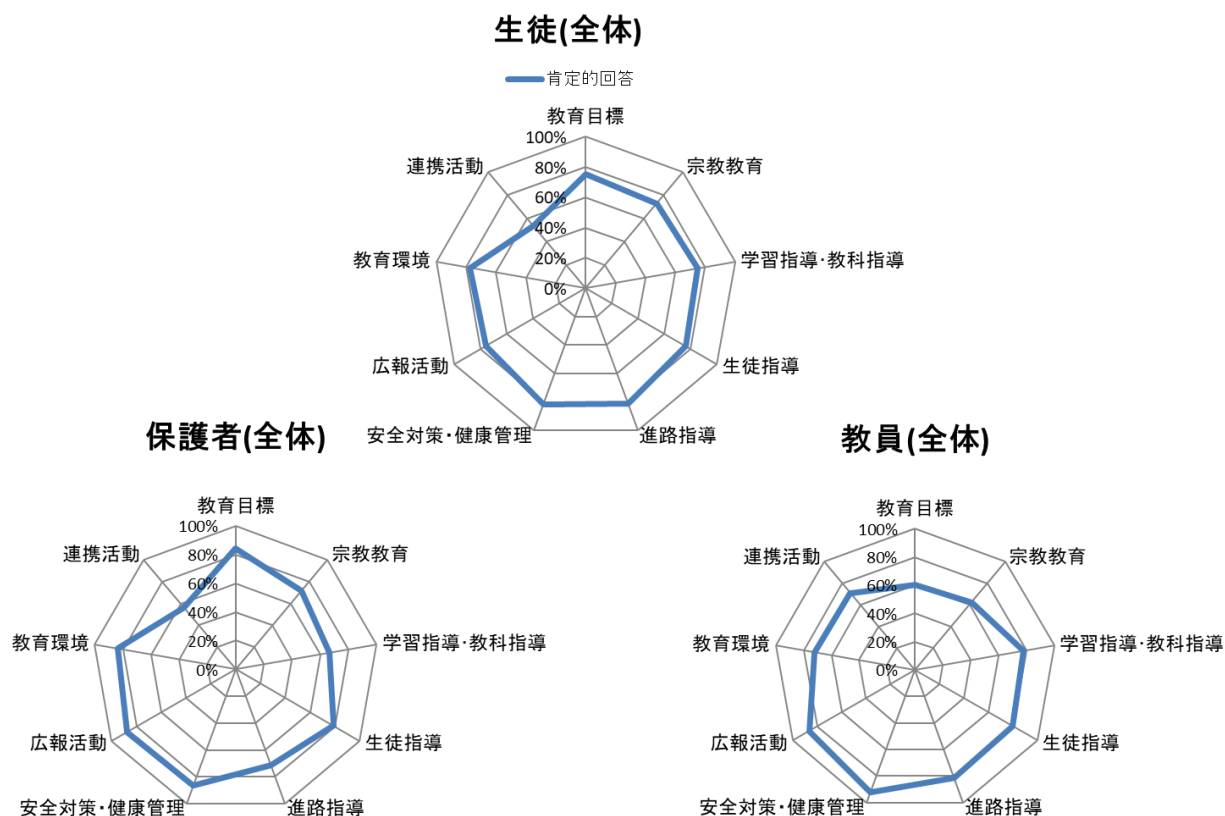
調査型式：匿名アンケート調査・・・オンラインアンケート

回答率：

生徒回答率	84%
保護者回答率	76%
教員回答率	96%
全体	80%

3. 生徒、保護者、教員アンケート分析チャート

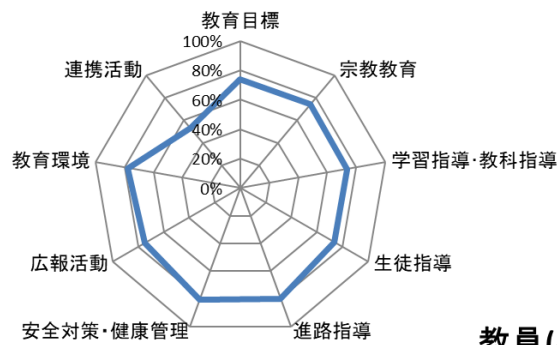
【学校全体(両キャンパス)】



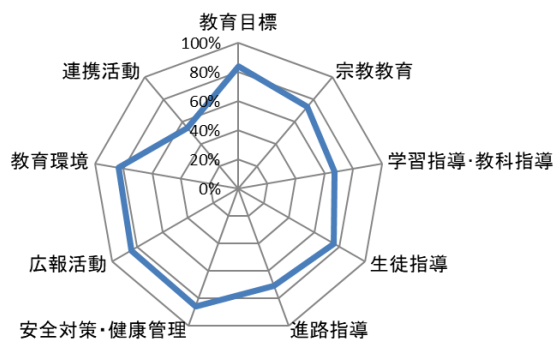
4. 生徒、保護者、教員アンケート分析チャート

【薬師堂キャンパス】

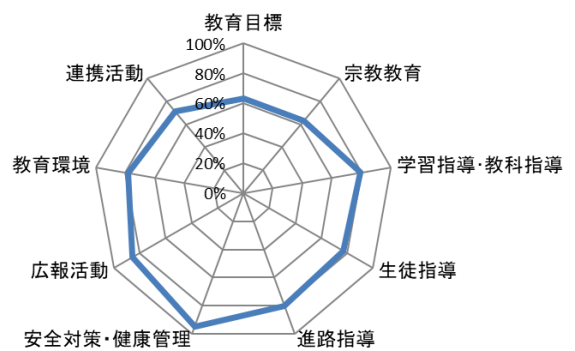
生徒(薬師堂)



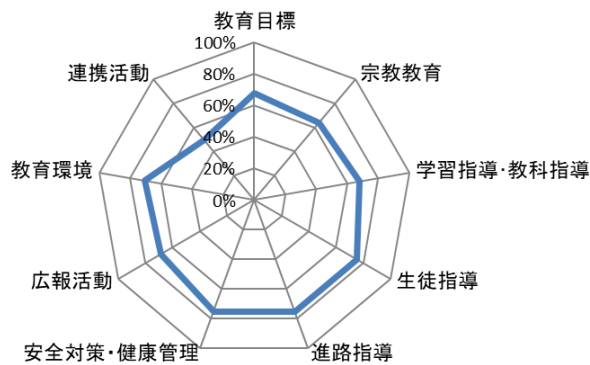
保護者(薬師堂)



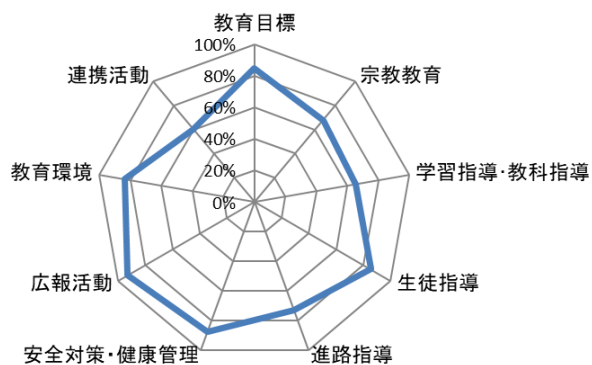
教員(薬師堂)



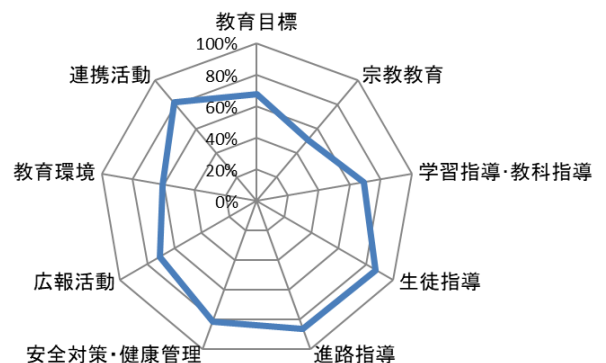
生徒(三神峯)



保護者(三神峯)



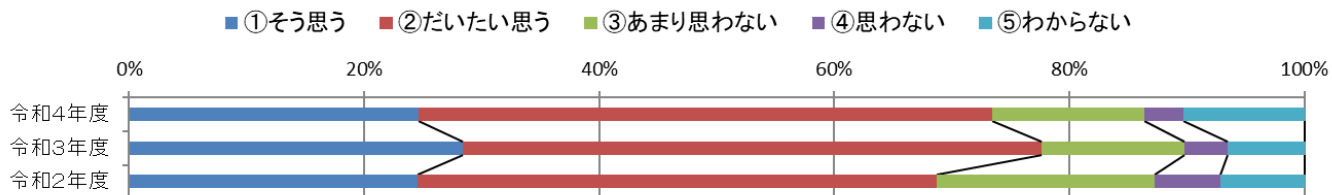
教員(三神峯)



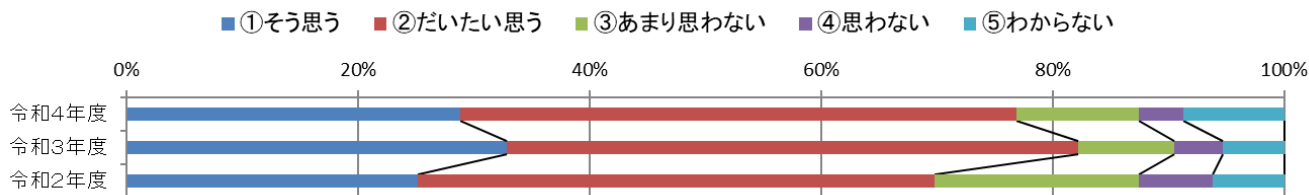
【令和2年度～令和4年度質問項目別経年比較(生徒回答)】

質問項目

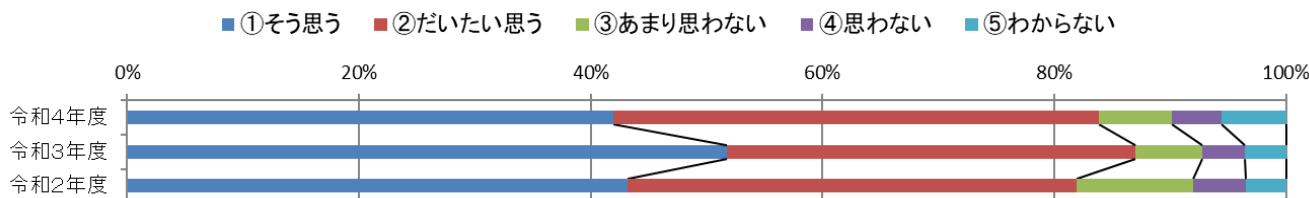
1.生徒は本校の建学の精神・校訓を理解している。



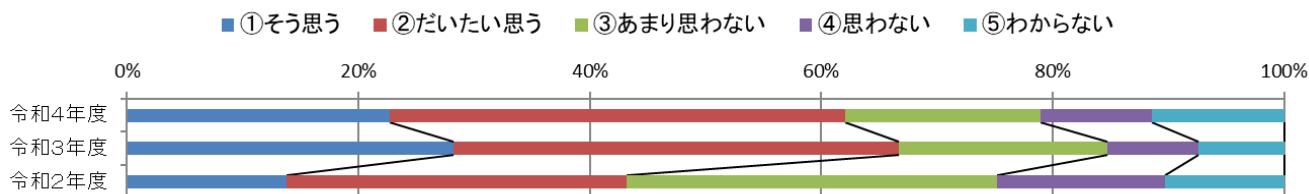
2.本校のコース、教育課程は生徒の個性を伸ばし、将来の希望を達成できるよう工夫されている。



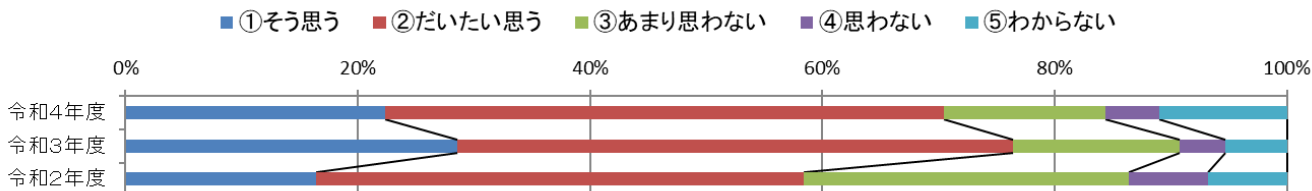
3.生徒は週一回の勤行や宗教の授業を通じて、仏教を身近に感じることができた。



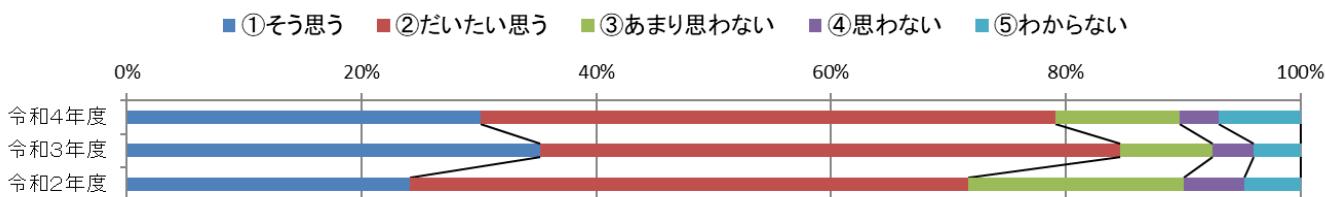
4.生徒は花まつりなどの宗教行事により新しい知識を得、仏教精神を日常の行動にいかしている。

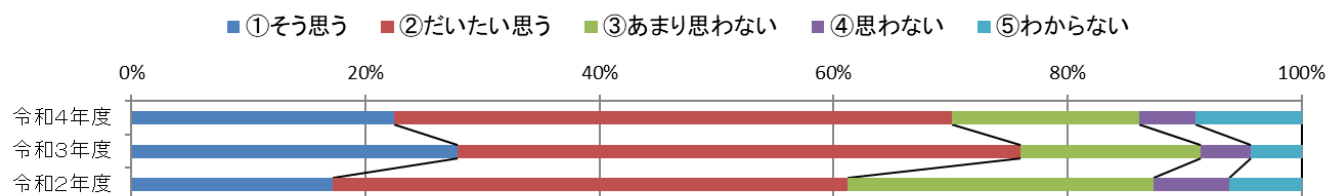


5. 授業の目標や計画が明確に示されているので学習のようすがよくわかる。

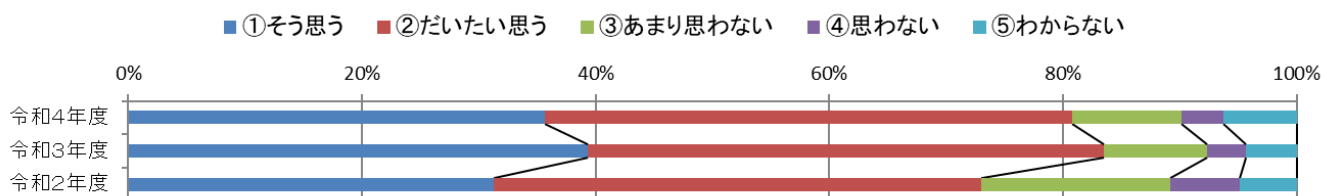


6.授業では各先生が、教材や教え方を工夫し熱心に指導している。

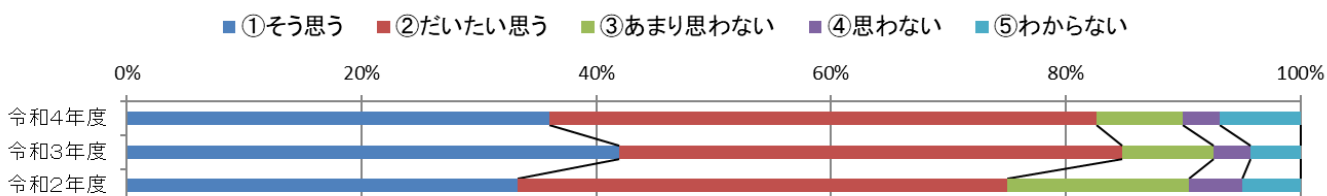




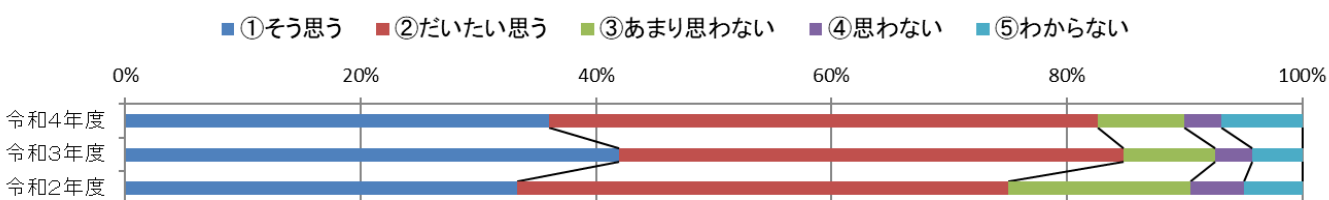
8.評価の仕方や基準が明確であり、事前に説明されている。



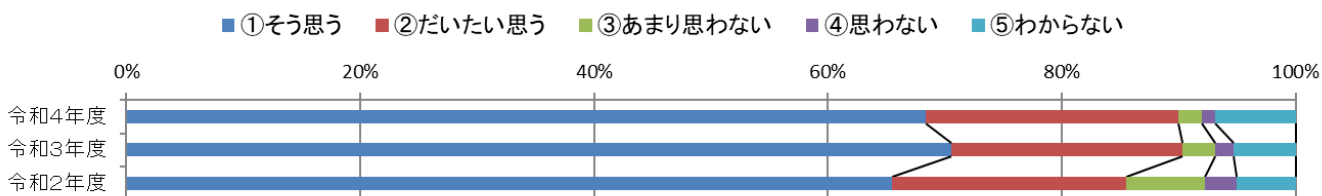
9.挨拶やマナー等の基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。



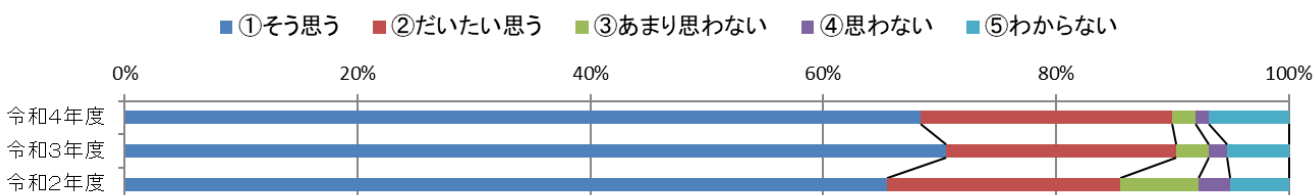
10. 必要ときに相談に応じてくれる体制ができている。



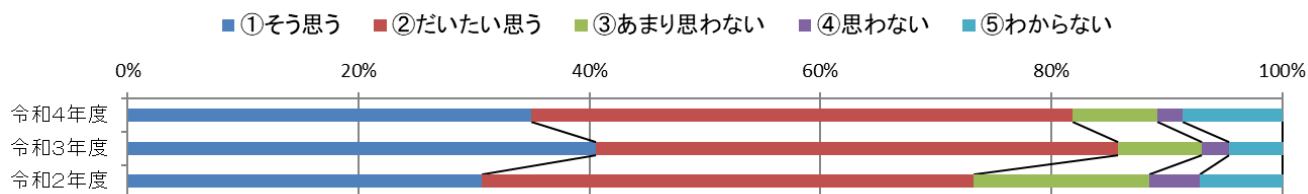
11. 部活動は活発に行われている。



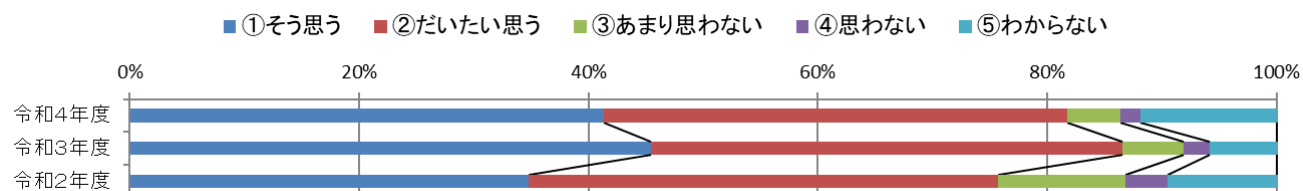
12. 生徒会活動や学校行事は活発に行われている。



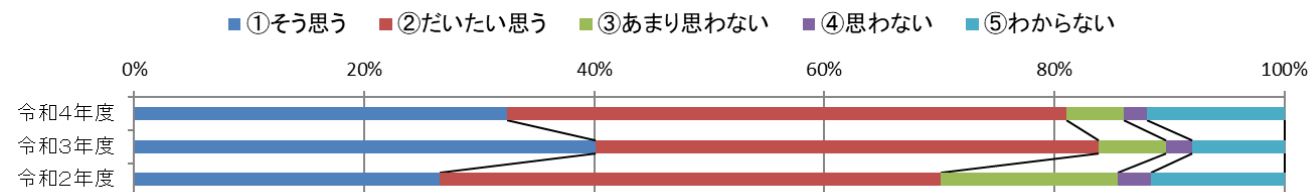
13. 進路に関する情報は十分に提供されている。



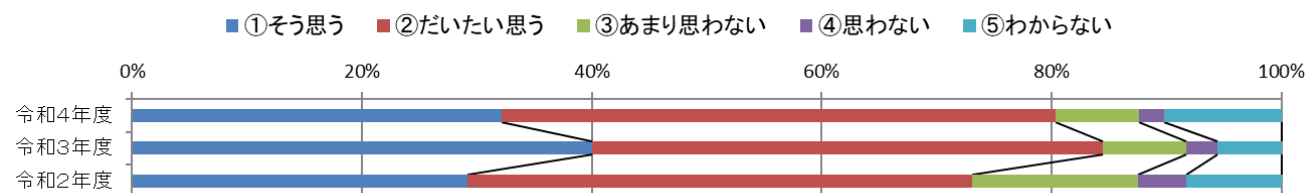
14. 先生方は進路に関する相談に十分応じてくれている。



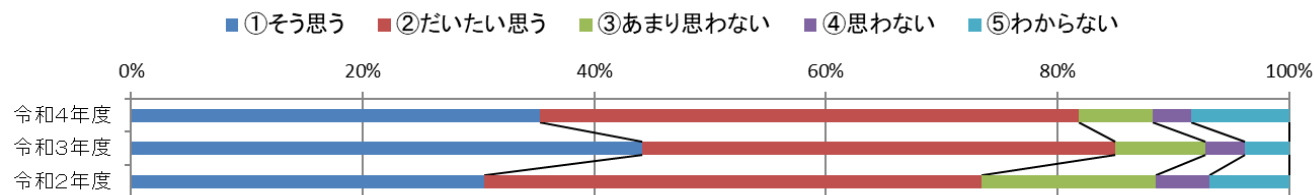
15. 学校は進路講演会等様々な進路指導行事を工夫して指導にあたっている。



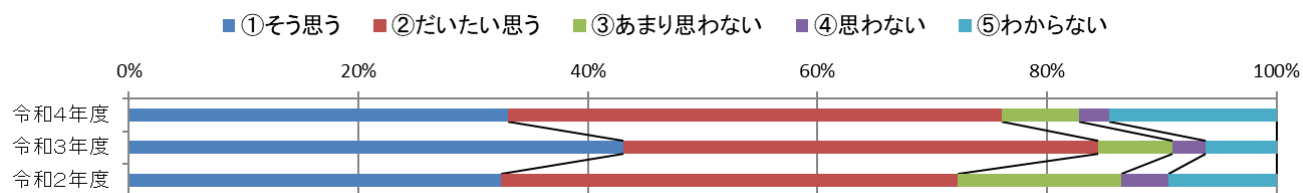
16. 学校は進路達成のための学力向上をはかり、講習や模試を十分に提供している。



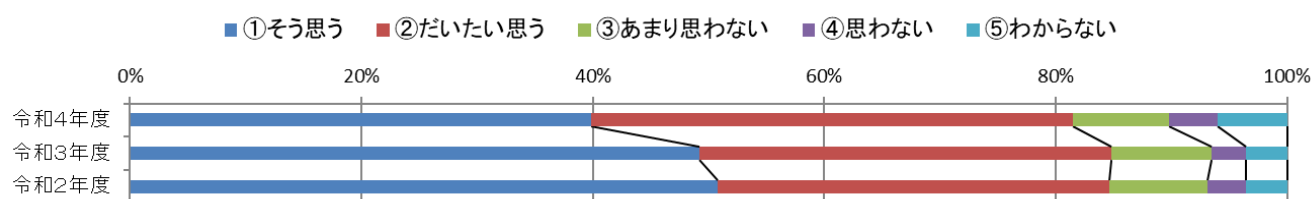
17. 学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる。



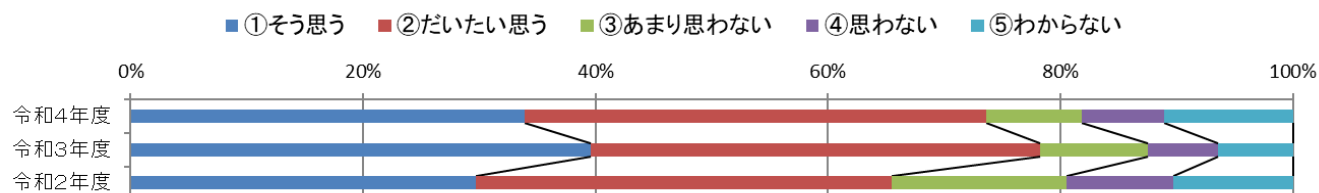
18. 保護者に対して学校便りやホームページ等によって、学校の情報は適切に伝えられている。



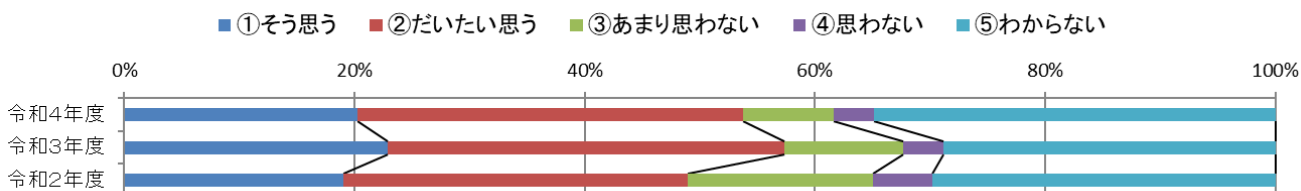
19. 校舎やグラウンド等の施設や設備は整備されている。



20. 聖和学園高校に入学してよかったと思っている。



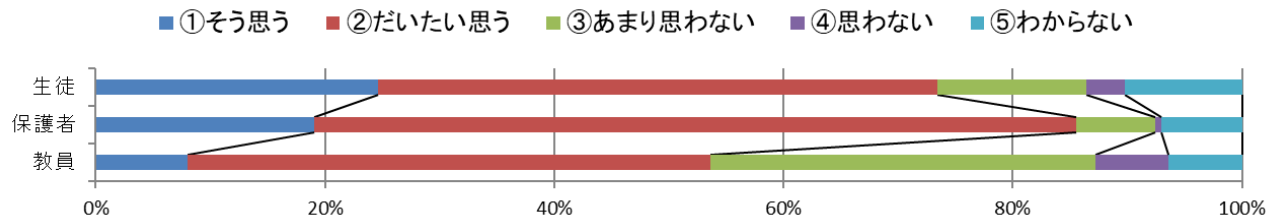
21. 連携活動（高大連携・地域連携・産学連携・保護者教師会との連携・同窓会との連携）は活発に行われている。



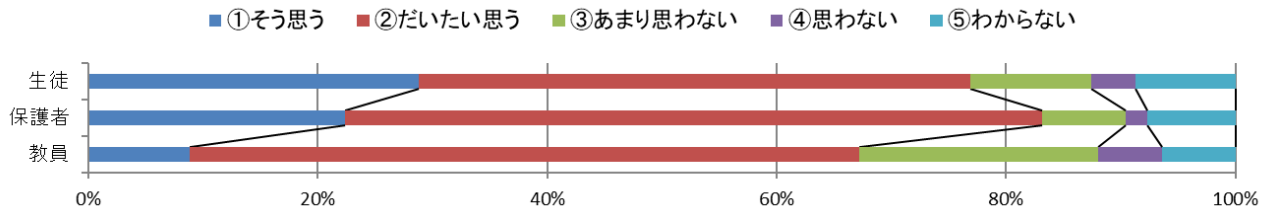
【令和4年度質問項目別比較（生徒・保護者・教員）】

質問項目

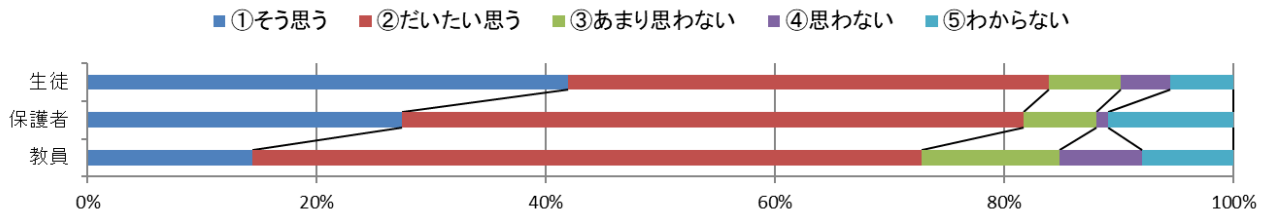
1.生徒は本校の建学の精神・校訓を理解している。



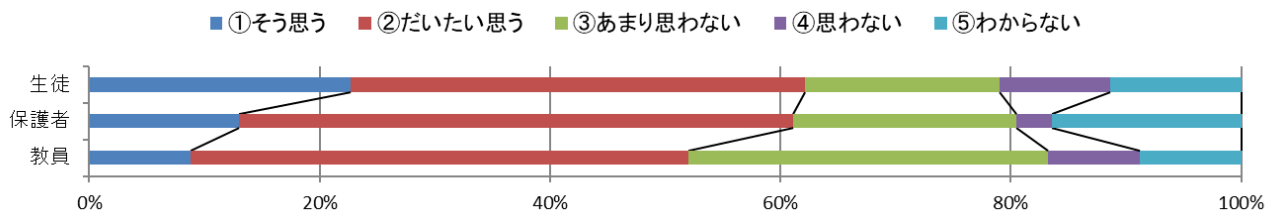
2.本校のコース、教育課程は生徒の個性を伸ばし、将来の希望を達成できるよう工夫されている。



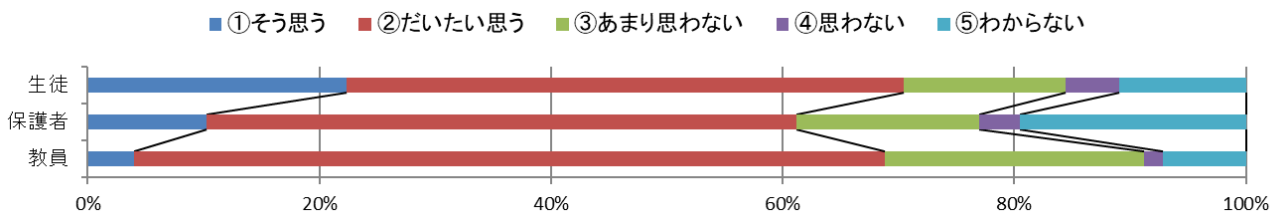
3.生徒は週一回の勤行や宗教の授業を通じて、仏教を身近に感じることができた。



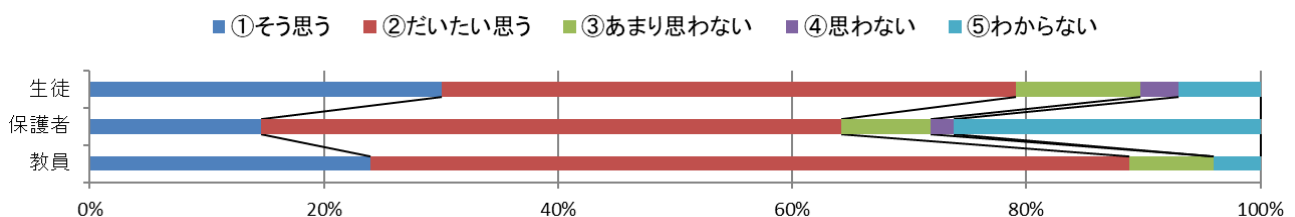
4.生徒は花まつりなどの宗教行事により新しい知識を得、仏教精神を日常の行動にいかしている。



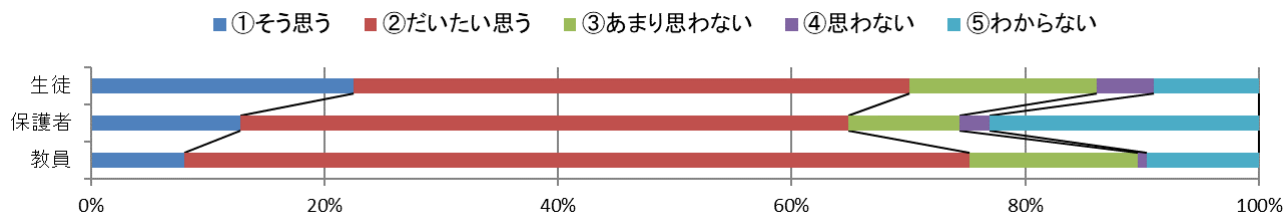
5.授業の目標や計画が明確に示されているので学習のようすがよくわかる。



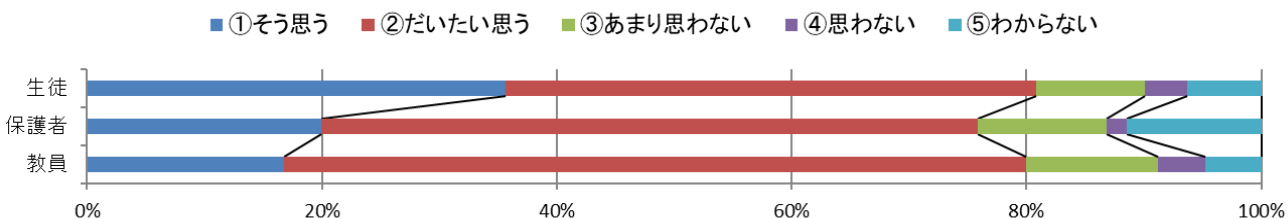
6.授業では各先生が、教材や教え方を工夫し熱心に指導している。



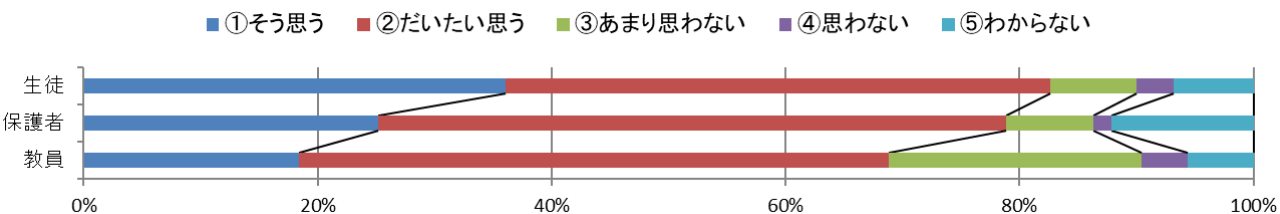
7. 生徒にとって学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。



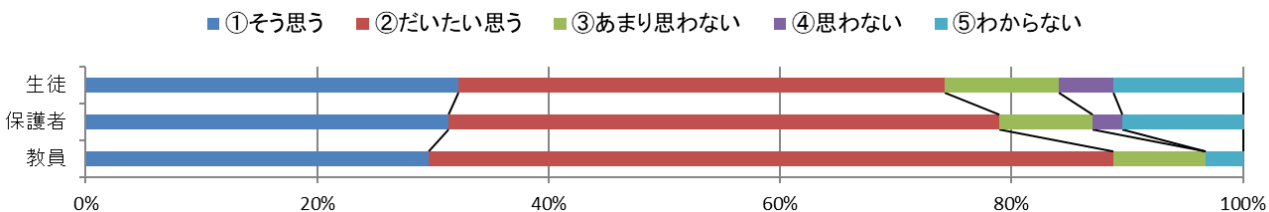
8. 評価の仕方や基準が明確であり、事前に説明されている。



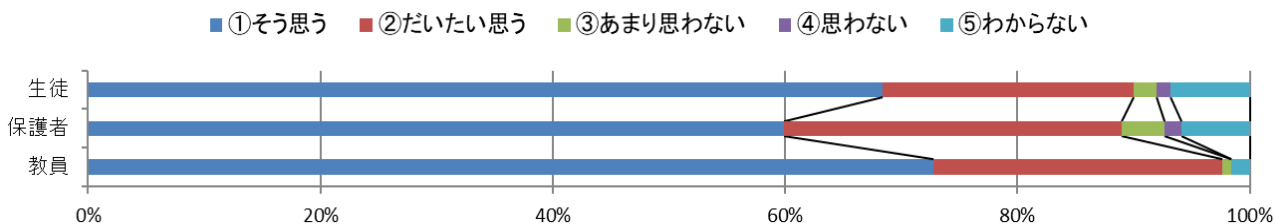
9. 挨拶やマナー等の基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。



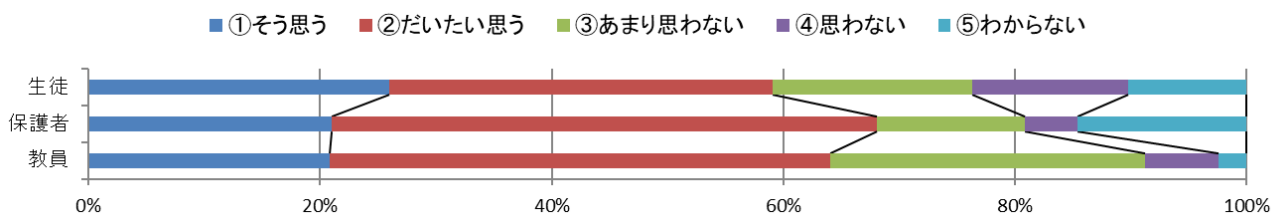
10. 必要なときに相談に応じてくれる体制ができている。



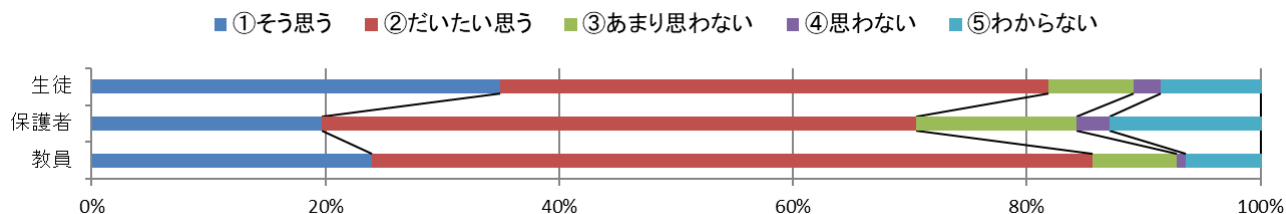
11. 部活動は活発に行われている。



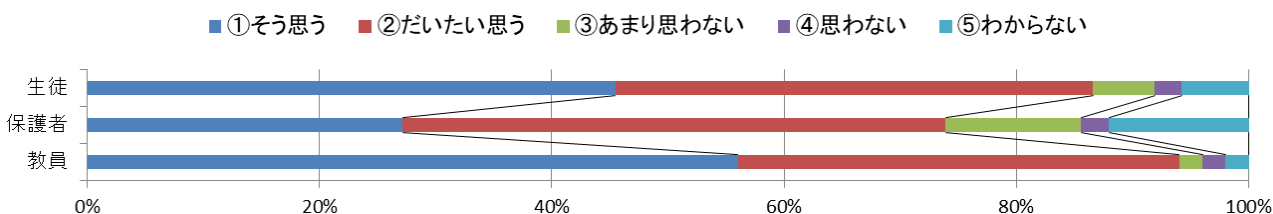
12. 生徒会活動や学校行事は活発に行われている。



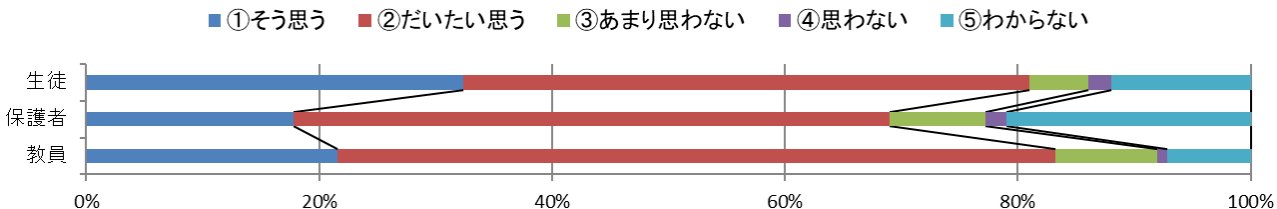
13. 進路に関する情報は十分に提供されている。



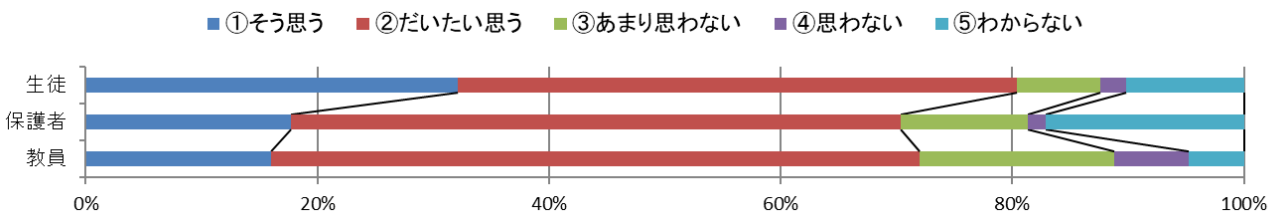
14. 先生方は進路に関する相談に十分応じてくれている。



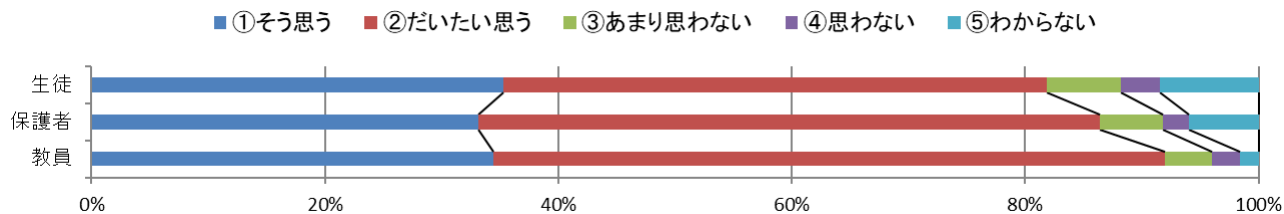
15. 学校は進路講演会等様々な進路指導行事を工夫して指導にあたっている。



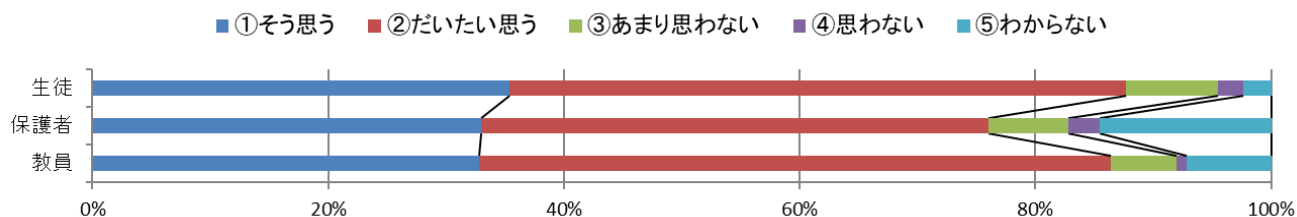
16. 学校は進路達成のための学力向上をはかり、講習や模試を十分に提供している。



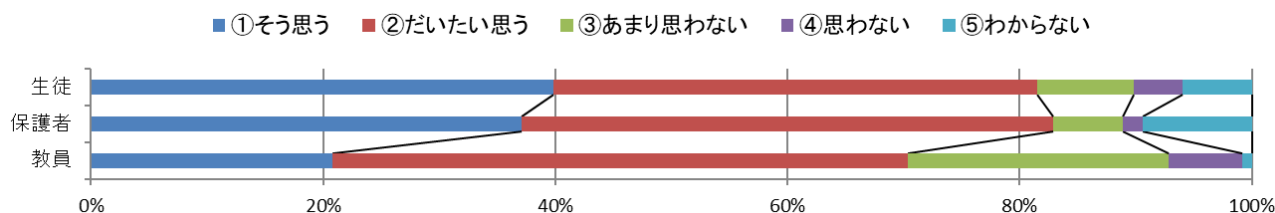
17. 学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる。



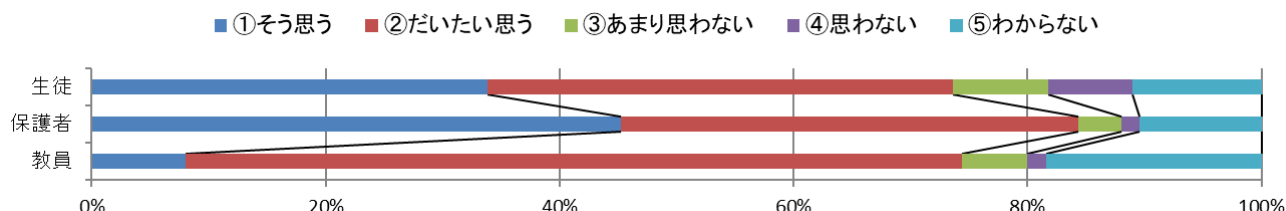
18. 保護者に対して学校便りやホームページ等によって、学校の情報は適切に伝えられている。



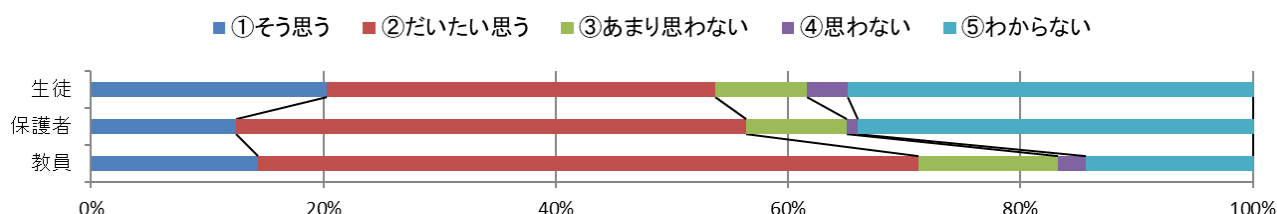
19. 校舎やグラウンド等の施設や設備は整備されている。



20. 聖和学園高校に入学してよかったと思っている。



21. 連携活動（高大連携・地域連携・産学連携・保護者教師会との連携・同窓会との連携）は活発に行われている。



分析と今後の取り組み

《概況》

すべての質問項目に対し、①「そう思う」②「だいたい思う」を肯定的評価とし、その割合を算出した。過去3年の評価は次の通りである。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
生徒	69%	80%	76%
保護者	71%	75%	75%
教員	70%	81%	76%
全体	70%	79%	76%

昨年度、アンケートの回答率が大変低かった反省をもとに、今年度は実施時期や実施方法など吟味して実施した。その効果が見られ、回答率は前述の通り全体で8割に回復した。実施時期は例年実施していた2月から12月とし、実施方法は昨年度に引き続き、実施方法はオンラインとしたが、今年度は導入した教育支援システムのアンケート機能を使用したため、アクセスのし易さから回答率上昇に結びついたと考えている。昨年度のアンケートの回答率が低かったことから、分析としては一昨年の結果も見ながら纏めていくこととする。今後も信頼性あるアンケート結果となるよう、回答率向上に努めたい。

《生徒回答について》

肯定的回答割合は全体評価として、昨年度比4%低かった。しかし、一昨年度比では7%向上しており、レーダーチャートによる分野評価のバランスがとれており、全体評価としては概ね良好な結果と受け止めている。具体的にはQ21の連携活動に関する質問以外ほぼ全ての分野で7割以上の肯定的回答だった。

質問別にみていくと、Q1及びQ2の教育目標分野の質問（建学の精神・校訓の理解及びコース・教育課程）の肯定的回答割合が安定的に7割以上となったことは嬉しい結果である。さらにQ3の宗教に関する質問（生徒は花まつりなどの宗教行事により新しい知識を得、仏教精神を日常の行動に活かしている）については、昨年度結果より若干低いものの、一昨年度に比べると肯定的回答が20%向上している。朝の行や勤行の取り組みが、心を落ち着けて1日をスタートできる良い生活習慣に繋がっていることは実感として挙げられる。

また、Q5～8の学習指導・教科指導分野(教材・教え方の工夫・授業展開・評価基準)の質問についての肯定的回答割合は昨年度と比べると若干低くなったものの、肯定的回答のなかでも「①そう思う」と答えた生徒の割合が増えたことは良い結果である。コロナ禍の影響によって減少していたグループ活動や発表機会を徐々に増やすことができてきていること、状況に応じた教科指導や個別学習のサポートには時間をかけたことが結果に反映されたとすれば大変喜ばしい。研究授業や校内公開授業を今後も継続し、互いの授業の在り方を検証していくこととしたい。

一方、昨年度比較的肯定的評価が伸び悩んだQ12（生徒会活動や学校行事）は、Q11（部活動）と同じ程度肯定的評価を得られた。残念ながら、コロナウィルス感染症とはうまく共存していかなければならないと予想されるが、生徒の学校生活を彩り、学校生活への意欲を高める各種行事の運営に工夫しながら学校生活の活性化を図っていきたい。

《保護者回答について》

過去三年比で70%以上の肯定的評価を得られている。質問別に見ていくと、Q17（安全対策・健康管理）が前年度比8%向上している。コロナ対応感染対策や台風・大雨などの学校対応、生徒健康管理の徹底など、速やかな対応をとるとともに、保護者の方々への円滑な情報発信を今後も心掛けたい。さらに教育環境分野に対する評価が5%向上した。なかでもQ20（聖和に入学して良かった）と考える保護者が増えていることが大変嬉しい結果である。しかしながら、この質問については、否定的回答は限りなく0を目指すべきであり、今後さらに保護者の方々の声にも積極的に耳を傾けていきたい。加えて今後の課題点として挙げたいのはQ13～Q17（進路指導）である。71%の肯定的評価を得られたが、生徒の全体評価に対し10%低い。保護者の協力や理解なくして生徒の進路は達成できないため、保護者の進路活動への参加機会、よりきめ細やかな情報提供など、次年度以降の取り組みに工夫していきたい。

《教員の回答について》

生徒および保護者の回答と比較してみると、教員が課題点と考えている分野はQ1、Q2（教育目標）である。肯定的評価が約20%低く、学校の根幹である建学の精神や校訓、教育課程やコースの在り方について課題を感じている表れと言える。まずは、教員が課題と考えている点は具体的にどのような点にあるのか明確化したい。その上で生徒保護者の受け止めとどの点が異なるのか比較し、具体的改善点を見出していきたい。一方、生徒保護者の受け止めに対し、教員の肯定的評価が約15%高かったのはQ21（連携活動）であった。連携事業はここ3年のあいだ部門強化を図り、保護者・同窓会との連携については勿論、高大連携・地域連携・産学連携を柱として事業の活性化に力を注いできた。生徒保護者の回答内容としては、「⑤わからない」とした回答が多かったため、連携活動自体の周知と理解を深めることを意識し、次年度以降さらなる発展をめざしたい。